



オタモイ山展望所(イメージ)

チャーガイドに導かれながら動植物、地質、歴史などの案内を受けられる、悠久の時を辿る遊歩道です。

第1期計画の策定

オタモイ開発基本構想は、以上の4つの柱で構成し、その中にさらに多くの要素を盛り込んでいきます。これらの整備は、全てを一度に進めることは難しいので、実現可能なものから順次進めることを想定しています。



オタモイテラス(イメージ)

③オタモイテラス

海拔150mの台地、新道岬に休憩・展望所を提案しています。

オタモイ遊園地跡地を眼下に一望できる景勝の地であり、龍宮閣が昭和の空中楼閣とすると、オタモイテラスは、令和の空中楼閣ともいえるものです。テラスからはAR技術で龍宮閣を再現し、夜はライトアップされた弁天岬を眺めながら、往時を偲ぶことができます。また、軽飲食の提供も行うなど、自然・地質観光の拠点となる展望カフェとしての機能も併せ持ちます。

④ボンモイへの道

ボンモイとは小さな(ボン)入江(モイ)を意味するアイヌ語であり、ボンモイへの道は、オタモイLabから塩谷方面約3km先にあるボンモイ岬までの遊歩道です。海拔100mから190mの間で緩やかに波打つ台地を歩くルートで、垂直に切り立った崖の際を辿ります。冬季はスノーシュートレッキングにも適しているルートです。

一千万年前の海底火山活動による地質が特徴的なロッキークーストを形成しており、ルート上の各展望所からは、美しい岩頭や水平線を眺めることができます。ネイ

委員会では、オタモイを体験するための入口となる「オタモイLab」と、市街地から近く、これまで広く知られることのなかった魅力的な景観が広がる「オタモイテラス」、そしてオタモイ山(標高209m)の切り立った崖を辿って2つの施設を繋ぐ遊歩道(「ボンモイへの道」の一部)の整備を第1期計画として、現在、利用者数の想定と、施設の規模や機能、施設整備にかかる金額など概算事業費の算出を進めています。

実現に向けて

オタモイ開発は、国定公園内の公園事業として行うことになるので、計画を実現するためには、許可を行う北海道に事業を認めてもらう必要があります。

そのためには土地所有者をはじめとする関係者の理解や協力が必要であり、実際に施設を整備し維持管理をしていく事業主体や、財源の確保が必要になります。これらの課題はありますが、オタモイ開発は、小樽のまちの活性化に寄与し、市民生活に豊かさを与えるものになると考えます。

委員会では、今後も実現に向けた議論・検討を進めます。

